

## 読書力評価の国際標準にむけての一考察(3)

### ——オーストラリアの DART の分析——

足立 幸子

#### 1. はじめに

本研究の最終的な目的は、学校教育における児童・生徒の読書活動を推進し活性化するような読書力評価とはどのようなものかを考察することである。国際化時代の現代においては、たとえ言語が異なったとしても、読書力評価を考えるとときには「国際標準」を視野に入れる必要がある。そこで、本研究では、国際的に影響力のある国々の国内標準を示したテストを分析し、我が国の読書力評価の手法を再考したり、読書力に対する概念を拡大させたりすることを目指してきた。イギリスのナショナル・テスト、アメリカの NAEP テストの分析に引き続き<sup>(1)</sup>、本稿は第三弾である。本稿では、オーストラリアを取り上げることとする。オーストラリアを取り上げる理由は次の3点である。

- 1) PISA2000, PISA2003<sup>(2)</sup>のオーストラリアの成績が上位であること。
- 2) 特に、クリティカル・リテラシー、マルチリテラシー、メディア・リテラシーの研究及び実践が盛んであり、新しい時代の読書あるいはリテラシーをとらえようとする背景があること。
- 3) 2)に関連して、オーストラリアの教育は、アメリカなど他の英語圏の国で高く評価されていること<sup>(3)</sup>。

オーストラリアにおける評価において、本研究の問題意識である、国内標準というレベルのものは、DART (Developmental Assessment Resource for Teachers) である。これは、PISA のオーストラリア担当でもあるオーストラリア教育研究協議会 (The Australian Council for Educational Research Ltd, 以下 ACER と略記する) が作成している。オーストラリアは、州ごとに教育を行っているが<sup>(4)</sup>、DART はほとどの州でも実施されているので、実質の国内標準と見ることができるのである。

以上のことをふまえて、本稿では、DART において実施される読書力評価を分析し、我が国における読書力評価に示唆を得ることを目的とする。

#### 2. DART 小学校中学年用英語の概要

DART には、小学校中学年用英語 (DART English Middle Primary) と、小学校高学年及び中学校用英語と、小学校高学年及び中学校用数学の3種類がある。本稿では、小学校中学年用英語を取り上げる。これは、教師が、児童・生徒の「見ること (viewing)」「読むこと (reading)<sup>(5)</sup>」

「話すこと (speaking)」「聞くこと (listening)」「書くこと (writing)」の5つの領域を評価するようにデザインされた評価パッケージである。図1は、そのことを、ACERが教師用ガイドの中で、図示したものである。「見ること」が中心となっており、共通の教材が用いられていることが、興味深い。DARTは、教師が実施するという点では、イギリスのナショナル・テストに近いものである。しかし、州を超えて共通に行われる評価という点では、ナショナル・テストだけでなく、アメリカのNAEPにも近いものである。

以下は、DART 小学校中学年用英語の教師用ガイド<sup>⑩</sup>の冒頭の文章である。

DART 小学校中学年用英語は、「神話と伝説」をテーマとし、学級で活動が行えるようにデザインされている。中心となる活動は、ビデオ「なぜ蚊の羽音は人の耳に届くか」である。それぞれの課題（足立注、見ること、読むこと、話すこと、聴くこと、書くことに関する各課題）は、生徒の姿（performance）を評価するためのガイドラインによって、統合され全体としての成績が出るようになっている。全ての活動は、3年生か4年生の教室の中で、徹底的にテストされ、それをういた教師と生徒からのフィードバックを基礎として洗練されたものである。

DART 英語は、教室の中の一つのリソースとして、達成をみる教師の評価の一部として用いられることを意図としている。教師の自由裁量か、もしくは、学校における評価や報告の手続きの一部として、用いられるものである。

教師は、授業中の都合のよい時に、英語のスキルのこれらの領域の一つかそれ以上を評価するために、DARTを用いることができる。

このように「見ること」を言語能力の一つとして位置づけていることは、多様なリテラシーを扱おうとするオーストラリアならではのことといえる。また、ビデオ「なぜ、蚊の羽音は人の耳

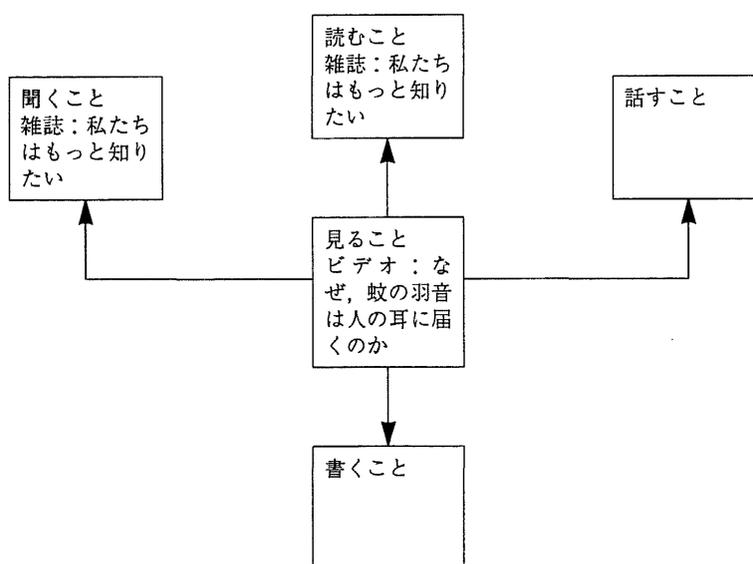


図1 DART 小学校中学年用英語の全体構成

に届くのか」と雑誌「私たちはもっと知りたい」を評価するための素材として、見ること、読むこと、話すこと、聞くこと、書くことに密接な関連を持たせているのは、評価ツールの開発としては興味深い。しかし、オーストラリアのビデオの形式は我が国と異なるため、このビデオはせっかく入手したにも関わらず視聴することができなかった。また、本稿は、このようなオーストラリアの幅広い言語能力のとらえ方に興味を持つものの、最終的には、読書力＝「読むこと」の評価をどのように行っているのかに注意を払うものである。これらの事情から、以下では、「読むこと」の評価についてのみ検討することとする。

### 3. DART 小学校中学年用英語における「読むこと」の概要

小学校中学年用英語にはA型とB型の2種類がある。A型は、雑誌を読んで、解答冊子中の設問に解答するのが1時間、絵本の表紙を見て、教師の出した質問に答えるのが15分間である。B型は、雑誌に対する解答1時間のみである。そこで、本稿では、紙面の都合上、A型を取り上げる。なぜなら、A型とB型の雑誌の作り方や設問の仕方は大変よく似ており、B型で指摘できることは、A型でも指摘できるからである。なお、B型の内容については、注7に示しておくこととする。

DARTの具体的なテスト内容を示すには、(1)読むための素材、(2)テストの解答冊子と設問、(3)評価基準の3つを示す必要がある。まず、それぞれの概要を述べる。

#### 3-1. 素材・設問・評価基準の概要

##### (1) 読むための素材

DART 小学校中学年用英語A型の読むための素材には、『私たちはもっと知りたい(A型)』という名の雑誌と、『ポーナルー湾一のくちばし』という名の本がある。雑誌の方はACERが作成したものであるが、本の方は、Narelle Oliverという作家が書いた市販の絵本である。それぞれの概要を説明する。

『もっとはもっと知りたい(A型)』は、表紙・裏表紙も含めて計8ページからなる薄い冊子である。冊子ではなく「雑誌(magazine)」という言葉を用いているのは、普段の読書生活の中にある自然に近い状態を作ろうとしているためと考えられる。雑誌形式は、イギリスのナショナル・テストでもあった。ただし、DARTが、これを雑誌として子どもに読ませようとしているかについては、不十分であるといわざるを得ない。なぜなら、詳しくは後述するが、雑誌という表現形式にかかわる設問が含まれておらず、特に表紙や裏表紙についての設問がないからである。通常雑誌には、様々なジャンル・形式の文章・情報が示されていて、多面的な「読むこと」を反映しやすい。多様な文章形態のものを出题する手段として、雑誌という形をとっていると判断できる。

『ポーナルー湾一のくちばし』は、版面の絵で構成された絵本である。この絵本は、1993年の野生社会環境賞に推賞され、1994年にはオーストラリア児童図書評議会の絵本賞候補となった。次のような話である。ポーナルー湾は、穏やかで静かなところだったが、ある日誰が一番素晴らしいくちばしを持っているかで鳥たちがけんかを始めた。そこで、賢い年寄りペリカンが智恵を

出してこのけんかをおさめ、また、平和で穏やかなポーナルー湾がもどってきた。野生の自然が、木版画の絵を伴って、生き生きと描かれている。

### (2) テストの解答冊子と設問

解答冊子 (Answer Booklet) という名がついている。全部で16ページあり、各設問が素材のどこに該当するのか、「雑誌の○ページの□□を読んで、次の設問に答えなさい。」という区切りが明確につけてある。表1は、素材と設問の関係を示したものである。設問23までは雑誌『私たちはもっと知りたいA型』から出題され、24以降は絵本『ポーナルー湾一のくちばし』から出題されている。ただし、この『ポーナルー湾一のくちばし』は、その本を読んでから解答するのではなく、本の表紙だけを見て、中身を予想して解答するのである。

各設問の内容を表2 (53ページ) に示す。設問の形式は自由記述のもの、絵を描くもの、4つの選択肢の中から1つを選ぶもの、など多様である。自由記述には正答の幅が狭い(いわゆる「正解」があるもの)と、オープンエンドのものがあり、記述スペースも設問によって異なる。そのスペースを括弧書きで、各設問の後に示すことにする。例えば、「1 なぜその男は彼の息子に、太陽に近づきすぎると言ったのでしょうか?(2行)」であれば、この解答を記述するために2行分のスペースがとってあるという意味である。(1コマ, 3行)であれば、絵を描くための四角い枠が1つに、文章を書くための3行分のスペースがあるというわけである。(4択)であれば4つの選択肢の中から1つを選ぶというものである。

### (3) 評価基準

DART は、Development Assessment Resource for Teachers というその名の通り、教師が児童・生徒の学力を評価するために、その評価情報を提供する趣旨で作成されている。通常担任教師が実施するわけであるし、採点も教師が行う。したがって、どのように採点したらよいのかという評価基準が、教師用ガイドに詳しく説明されている。設問によるが、通常は、妥当な解答の場合に1点、妥当でなかった場合に0点で、それぞれの解答例が示されている。本稿では、紙面

表1 DART 小学校中学年英語A型の素材・設問番号・評価基準の対応表

素 材		素 材	テ ス ト
素 材	素材の切れ目とタイトル	形態とジャンル	設問番号
雑誌『私たちはもっと知りたいA型』	(1)表紙	雑誌ラジオ番組の写真	なし
	(2)イカロス	9コママンガ 神話	1～6
	(3)私はイグアナのために	説明文	7～11
	(4)日食	新聞記事	12～15
	(5)かわいらしい蚊	詩	16～18
	(6)オリジナルの飛び出す民話をつくろう!	作り方の指示(料理のレシピのようなもの)	19～23
	(7)裏表紙	ラジオ番組の写真, 出典	なし
本『ポーナルー湾一のくちばし』	(8)ポーナルー湾一のくちばし	絵本 物語	24～26

の都合上、一部の設問に関してのみ、その評価基準を後で示すこととする。

### 3-2. 素材の分析

ここでは、まずどのような素材が読書力を測るために用いられているのかを分析する。媒体としては雑誌と絵本の2つであるが、雑誌については、それぞれの各素材の切れ目にしたがって内容を示し、その後、その素材に関するコメントを加えることとする。なお、斜字体は、素材に直接その言葉や文章が書かれているものを筆者が訳したものであり、通常の字体は筆者の説明や描写である。

#### (1) 表紙 (雑誌1ページ目)

表紙には、タイトル「私たちはもっと知りたい」Aのほかに、ラジオ局のスタジオのような写真がある。その写真には、DJの男の人と、スタッフの女の人、さらに、鳥の形をした大きなマスコット人形が置いてある。「あなたを最高に (to the MAX) 導く雑誌 (雑誌は赤い字で書いてある) !」という文の下には、赤い噴出しで、「今月のトピック…神話, 伝説, 民話, さらに…」とある。

今月のトピックは、この雑誌を貫くものとなっており、雑誌の「〇〇特集号」といった雰囲気を出している。イギリスのナショナル・テストのように、雑誌という媒体が読書生活の一部に十分に認識されていることを読書力の一部と考えるならば、ここで、「雑誌」という媒体についての設問がなければならない。表紙には、ラジオ局のスタジオのような写真がついているが、この写真と2ページ以降の内容には、何のつながりも見出せない。雑誌という形式が、十分に吟味されているとはいえない。

#### (2) 「イカロス」 (雑誌2ページ目)

9コママンガが描いてある。タイトルは「イカロス」で、ギリシャ神話のイカロスの話である。

1コマ目 イカロスとダイダロスの絵、イカロスは少し曇った表情である。「一人の男とその息子は、ある島の囚人 (prisoners 足立注、この島に監禁されていたという意味) だった。その男は、自分たち二人は鳥のように空を飛んで行きたいと言った。」

2コマ目 ダイダロスが糸と鳥の羽根の壺を前に座っている絵、ダイダロスは羽根を糸つなぎあわせているようである。「彼は、羽とワックスと糸を使って、一組の翼を作った。」

3コマ目 ダイダロスがイカロスに話しかける絵。「『海にあまり近づきすぎて飛ばないように。さもないと、翼がぬれてしまうだろうから。』と男は言った。」

4コマ目 3とほぼ同じ絵。「『太陽にあまり近づきすぎて飛ばないように。さもないとワックスがとけてしまうから。』」

5コマ目 ダイダロスとイカロスが、翼をつけて飛んでいる絵。ダイダロスが手前に大きく、イカロスは後ろに少し小さく描かれている。「最初、彼の息子は、彼のすぐ後ろを飛んでいた。」

6コマ目 二人とも飛んでいるが、イカロスが手前に、ダイダロスが後ろに描かれている。吹き出しで、イカロス「わお!」、ダイダロス「遠くに行き過ぎるな!」となっている。「しかし、すぐにその男の子は、うきうきして飛んでいってしまった。」

7コマ目 イカロスが飛んでいる絵。絵は下の方から上にいるイカロスを見上げる形で構成されている。横に雲、海鳥、太陽が描きこまれている。「上に上に、高く高く、彼は飛んだ。」

8コマ目 イカロスが太陽に迫っていく絵。イカロスの表情は楽しそうである。下の方の文章が書いてある部分はちぎれて見えなくなっている。

9コマ目 ちぎれて、絵の部分も、文章の部分もまったく見えなくなっている。

まず、9コママンガという素材が興味深い。マンガを読むことも読書力として位置づけている。8コマ目では下の文章が、9コマ目ではコマ全体がちぎれて見えないことで、それらの絵や文を想像させる設問がある。このように、マンガを読むこと、マンガの形式に従って想像してマンガ描くということも、読書力ととらえていることが分かる。

### (3) 「私はイグアナのために」(雑誌3ページ目)

背景にイグアナの絵が大きく描かれている。

イグアナは大きなトカゲである。他のトカゲやヘビと同じように、爬虫類に属している。イグアナは、頭から尾まで約2メートル近くの長さで、尾は力強い。

イグアナの体には、特別な特徴がある。たいていは、首から尾にかけて、背にとげがある。イグアナは、大きな袋をのどのところにぶら下げている。手足には、鋭い爪の生えた5本の指がある。

木の上に住むイグアナもいるし、地面にいるほうを好むイグアナもいる。彼らは獐猛に見えるけれども、たいていのイグアナは草食性である。果物・葉・草木の一部を食べる。海岸に住むイグアナは、海草を食べる。

1ページ分の科学的説明文である。このような素材は日本でもよく扱われている。ただし、大きなイグアナの絵がさし絵として描かれている。このさし絵は、この素材の第2段落を読む助けとなるものである。設問の中には、文章で表現されたイグアナの体の部分が挿絵ではどこにあたるかを解答させる(設問9)ものもあり、文章だけでイメージを鮮明に持つことよりも、絵も利用して読むということを正当な読書力として積極的に認めていることがうかがえる。

### (4) 「日食」(雑誌4ページ目)

タイトル文字は、黒い帯に灰色の字。黄色の背景に、三枚の日食の写真が並んでいる。その日食の写真とは、月が太陽を隠していく様が「午後4:03、太陽が来て」「午後:4:31、さらに来て」「午後4:39、隠す」とある。この黄色の背景のところに黒字で「日食の間、月は太陽からの光をさえぎる」とある。

その下に、新聞記事のような囲み。1995年10月25日付け。タイトルは、「恐ろしく魅力的な偉大なアジアの日食。」日食を見上げる三人のアジアの小学生の写真。写真の解説は「ハノイで学校の子供たちが手作りのめがねを通して日食をみている」となっている。しかし、その写真にかぶせて、赤い文字で、「注意!」と書いてある。その記事の内容は以下の通りである。

今日、東南アジアで、日食が起きました。

バシラン諸島(足立注、フィリピン、ミンダナオ島、南西部の島々のこと)では、人々は、日食は巨大な鳥が太陽を飲みこむことで起こると信じています。

人々は、その鳥が怖がって行ってしまうようにと、やかんやなべで大きな音を立てます。

注意

これらの子供たちは、とても危険な方法で太陽を見えています。覚えていてください。決して太陽を直接見てはいけません。目に損傷をうけるかもしれないからです。

もっと安全に日食を見るためには、テレビをみてください。

新聞記事のような形態の説明文である。日食の写真に基づく科学的説明と、バシラン諸島の人々の受け止め方と、アジアの小学生の写真及び説明と、日食の見方に関する警告の4つの情報が、組み合わせられた形になっている。実は、我々の生活で行っている説明文を読むことは、このような複数の形態の情報を組み合わせて理解するということである。しかし、日本において実際にテストで評価されるものは、一つの完結した説明文である。DARTのこのような形式は、読書

力を評価する方法として、我々に示唆を与えてくれる。

(5) 「かわいらしい蚊」(雑誌5ページ目)

かわいらしい蚊 (Lovely Mosquito) という詩である。作者は Doug Macleod, 大きな蚊がページの上中央に1匹, 小さい蚊がページの下の方に5匹, レイアウトされている。

かわいらしい蚊

かわいらしい蚊よ, ぼくの腕を刺している  
まるで彫像のように心安らかに静寂の,  
そこにいてよ! ぼくは危害を加えないよ  
ただ, 軽くたたきたいだけさ。

ぼくの静脈にちくつとさして, お前はおなかいっぱいになるまで飲み干す  
だれもお前をびしゃつとは打たないだろう。  
さあ, かわいらしい蚊よ, そこにじっとしてよ  
たたいて! びしゃ! ほらしとめた!

ドグ・マクロード

下線線部分は大文字で書かれている。我が国でも詩を読むことは読む力として評価されている。

(6) 「オリジナルの飛び出す民話をつくろう!」(雑誌6~7ページ目)

飛び出す民話とは, 紙で作った飛び出すしかけのカードに, 民話を書くものである。カードとは大きさA3判ぐらいの色画用紙である。それに加工を施す手元だけが移っている写真が合計で8枚あり, その写真ごとに説明がついている。最後に, 4名の子どもが作成した飛び出す民話カードを持ってほほえみ, その後ろには1人の教師がほほえんでいる写真が載っている。その写真の下には「他の民話でも, 飛び出す仕掛けを作ってみましょう!」とある。それぞれの写真の手順(段階)は以下の通りである。

第1段階 カードを折って, その折った端に二つの点を記しましょう。

第2段階 それぞれの点から線を引きましょう(約4センチメートル)。

第3段階 線に沿って切りましょう。

第4段階 切ったところを後ろに前に折りましょう。

第5段階 カードの内側に, その折った中心部分を引っ張り出しましょう。

第6段階 新しい白紙のカードを後ろに張り合わせましょう。

第7段階 キャラクターを添えましょう。

第8段階 解説はないが, 「3匹のコブタ」と書かれた, 完成したカードがうつっている。レンガの家の前に1匹のコブタが, 立っているカードである。

作り方を示した説明文である。特徴は, 写真がついているということである。文章を正確に読んで, 作り方を理解することではなく, 写真も含めて作り方を理解できるということが, ここで問われている読書力ということになる。

(7) 裏表紙(雑誌8ページ目)

表紙と同じ, ラジオ局のスタジオ写真。DJの男の人も, スタッフの女の人も, にこやかにこちらに向かって手を振っているという写真である。そこに, 「私たちのラジオ番組を聴くのを忘れないでね。」「さよなら, また来週。」という吹き出しが付けられている。さらに, 「来月のトピックはペットを飼うこと」とある。このページの下の方には, 「かわいらしい蚊」の出典, 「日食」や「オリジナルの飛び出す民話をつくろう」の写真の出典が示されている。また, DARTを作成したACERの著作権表示もある。

表紙のところで述べた繰り返しになるが, DARTでは, 雑誌という媒体についての設問が一切

ない。イギリスのナショナル・テストは、署名記事や編集者のコーナーといったものがあり、「雑誌」という媒体を読んでいくことの意味が問われていた。この DART の裏表紙も、「来月のトピック」など、雑誌という媒体を読む設問は作れるはずであるし、そうしてこそ、雑誌という形態を用いる意味があるのではないかと筆者は考える。

#### (8) 絵本「ボーンルー湾一のくちばし」

「ボーンルー湾一のくちばし」

絵本である。表紙絵は、左手前に大きなペリカンの絵が描かれている。背景には、水辺にマングローブの木、8羽の水鳥が空を飛んでいる様子が描かれている。

子どもは、この本のタイトルや表紙絵に基づいて、本の内容を予想する。この素材は、①文章ではなく本という素材を読書するということの評価する点、②内容を読まずとも内容を推測することが重要な読書力ととらえている点、の2点において、我が国の読書力評価に示唆を与えるものである。

#### 3-3. 設問の内容と分類

設問の内容を、表2(53ページ)に示す。前述のように各設問の後に括弧書きで示したことは、解答の形態を表す。例えば、「(2行)」ならば2行分のスペースを用いて記述する記述形式という意味であるし、「(4択)」であれば、4つの中から一つを選択する多項目選択式という意味である。記述形式で解答する設問が多いと言える。

DARTの設問を詳細に検討するためには、なんらかの枠組みが必要であると考えられる。アメリカのNAEPなどは、読むことを構成的な過程ととらえ、ABCD4つの側面を設定し、それに対して設問を作成していた。しかし、DARTにはこのような読書の側面あるいは枠組みの提示はない。そこで、本稿では、二つの分類の方法を提案し、それぞれの分類に基づいて、DARTの設問を分析することにする。

##### 3-3-1. 分類I(NAEPの読書の4側面を利用した分類)による分析

NAEPは、読むことを構成的な過程ととらえ、4つの読書の側面を設定し、それぞれについて以下のような設問を出していた。

- A 全体的な理解を形作る設問
- B 解釈を展開する設問
- C 読者とテキストのつながりをつける設問
- D 内容と形式を吟味する設問

まず、分類Iとして、これらを設問の分類の指標と用いることとする。そして、各設問の分類結果を表2の分類Iの欄に示す。

足立(2004)で示したNAEPにおける4年生の文学的テキスト及び情動的テキストの計21の設問のうち、Aは2、Bは16、Cは2、Dは1であった。これに対して、DARTの方は、設問14にはaとbがあるので、計27ある設問のうち、Aが0、Bが17、Cが6、Dが3である。ここから判断できるDARTの特徴は、2点ある。1点目は、Aが1つもないということである。Aは通

表2 設問の内容と分類

素 材	設 問		分 類	
			I	II
イカロス	1	なぜその男は彼の息子に、太陽に近づきすぎるなどいったのでしょうか。(2行)	B	RT
	2	その男の子は、「うきうきして」飛んでいってしまった。これはどういう意味でしょうか。(2行)	B	OO
	3	この絵の中では、男の子はとても高く飛んでいっている。そのことがどのように分かりますか。(2行)	B	TS
	4	話の一部分からいくつかの語が失われています(破れて見えないような形になっている)。この絵に1文をつけなさい。(3行)	B	AY
	5	これは本当の話だと思いますか。あなたの答えを説明しなさい。(2行)	C	AY
	6	この話を終わらすために、絵と文を書きなさい。(1コマ, 3行)	D	OO
私はイグアナのために	7	第2パラグラフは私たちに次のことを教えてくれます。(4択)	B	TS
	8	イグアナが背中にとげを持っているのは、なぜだと思いますか。(2行)	C	AY
	9	イグアナの手足の1つに丸をつけなさい。	B	OO
	10	イグアナは自由な指を持っている。「自由な」とはどういう意味だと思いますか。(4択)	B	AY
	11	ほとんどのイグアナは草食性である。このことは、彼らが～するという意味である。(1行)	B	TS
日 食	12	日食の間は何が起こっているのでしょうか。(1行)	B	RT
	13	バシラン諸島の人々は、日食の間何をしたのでしょうか。(2行)	B	RT
	14	ヘッドラインでは「恐ろしく魅力的な偉大なアジアの日食。」と言っているが、誰が恐れていたのか。(1行)	B	TS
	14	誰が魅了されたのでしょうか。(1行)	B	TS
	a			
	b			
15	あなたのクラスで、日食についてもっと調べようとしています。あなたは何を知りたいと思いますか。(2行)	C	OO	
かわいらしい蚊	16	なぜこの人は、蚊にそっと話しかけているのか。(2行)	B	AY
	17	なぜこの数語は大文字で書かれたのでしょうか。(2行)	B	OO
	18	この作者は蚊をかわいらしいと思っていますか。(2行)	D	AY
オリジナルの民話をつくろう	19	次の本のうち、「オリジナルの飛び出す民話をつくろう」のその作り方が書いてあるとあなたが思うのはどれですか。(4択)	C	OO
	20	作り方の正しい順序に番号をつけなさい。	B	TS
	21	第7段階と第8段階の間に、何がありますか。(2行)	B	RT
	22	もしもあなたが第6段階の前に第7段階をしたなら、飛び出すカードはそのまま作れるでしょうか。あなたの解答を説明してください。(2行)	C	AY
	23	なぜこの作り方の説明にこの写真(完成したものを持つ4人の子どもと一緒に微笑む1人の教師)があるのですか。(2行)	D	AY
予想問題	24	教師の指示を聞き取りなさい。(教師は、本のタイトル部分を指して、「これは何ですか。」という質問をすることになっている。)(1行)	D	OO
	25	この話はどこの話だと思いますか。あなたの解答を説明してください。(2行)	B	TS
	26	この本の中の話について考えなさい。2つか3つの文で、この話を書いてください。(4行)	C	OO

常、素材である文章が示されて、その文章を全体として判断する最初の設問であることが多い。DARTでは、それぞれの素材が短く、素材の形式が全体的理解を促すような構造になっているために、特にAのような全体を把握するための設問は意味をなさないと考えられる。2点目は、C及びDの割合が高いということである。このことは、文章に書かれたことをそのまま正確に読み取るということよりも、自分の考えを示したり(C)、形式を完成させたり(D)する設問が多いことを裏付けている。

### 3-3-2. 分類Ⅱ (QAR を利用した分類) による分析

さらに本稿では、本文にしたがって内容を正確に読み取ることを要求されているか、それとも、自分の経験に照らし合わせて、自由に解答することを要求されているかという点に注目したい。なぜなら、このことは、テストを作成する上で、重要な指標となるからである。ここでは、Raphael (1986) が指摘した QAR (Question Answer Relationship) を用いることとする。QAR では、設問と解答の関係を4つに分類する。

Right There (そこにある。以下 RT とする)。解答がテキストの中にあり、たいていやすく見つけられるもの。解答になる単語や語句が、設問を表す文の中に含まれているもの。例) 設問：ジャックは今日何に乗って学校に行ったか。解答：…だから、ジャックは、今日は馬に乗って学校に行った。

Think and Search (考え、探す。以下 TS とする)。解答がストーリーの中にあり、解答者がいろいろな話の部分を集める必要があるもの。例) 設問：どのようにあなたはピーナッツ・バター・サンドイッチを作りますか。解答に関わるテキストの部分：一番目に、パンを何枚かとりまします。…(中略)…二番目に、ナイフをとります。…(中略)…三番目に、ピーナッツバターをとります。…

Author and You (作者と読者。以下 AY とする)。解答はストーリーの中にはない。読者が既知に知っていることや作者が述べていることの両方をいかに統合するかが問われる。

On My Own (自分自身で。以下 OO とする) 解答は、ストーリーの中にはない。テキストを読まなくとも解答することができる。自分自身の経験を用いる必要がある。

簡単な言い方をすれば、AY と OO は、オープンエンドの設問になる可能性が高い。表2の分類Ⅱの欄に、分類した結果を示す。計27の設問のうち、RTに分類できたものが4、TSに分類できたものが7、AYに分類できたものが8、OOに分類できたものが8あった。AYとOOの、文章そのものの理解という範囲に収まらないものが多いことが分かる。この多さを示すために、アメリカのNAEPの小学校4年生向けのテストにおける設問計21を同じ方法で分析してみた<sup>9)</sup>。RTが4、TSが10、AYが5、OOが2となった。すなわち、NAEPでAY及びOOに分類されるものが33.3%であるのに対し、DARTでは、59.2%である。我が国の場合は、きちんとしたデータに基づいたわけではないが、おそらく、RTとTSに分類されるものが多いのではないかと推測される。特にDARTでは、OOに分類するものが多い。このことは、書かれている文章そのものの理解だけではなく、文章そのものに触発された読み手の自由な発想とか、普段の読書生活に関

わる知識などが、設問を通して評価されていることを示している。オープンエンドという言い方を用いれば、我が国がクローズドエンド指向なのに対し、DARTはオープンエンド指向といえる。

### 3-4. 評価基準の例と分類Ⅱ

紙面の都合上、全ての設問の評価基準を示すことはできない。そこで、特に我が国にはあまり見られない、DARTに特徴的な設問とその評価基準の例を示し、分類Ⅱの実際を示すことにする。

設問5 これは本当の話だと思いますか。あなたの答えを説明しなさい。(2行)  
解答 1点の基準：出来事の可能性に言及しているかこれが神話であるということを認識している。例1) いいえ、なぜなら人は飛べないからです。例2) いいえ、これは神話だからです。0点の基準：妥当でない解答かはいもしくはいいえの選択だけで説明がない解答。

これは、本文に対して距離を保って読むことを求めている。特に1点の例2)のように、「神話」というジャンルについての知識から解答を導いても、正答とする。このようにジャンルについての意識を持っていることは、他の設問でも現れており、本文を読むということ以上に、子どもが持っている読書におけるジャンルに対する知識についても、評価を行っている。表2ではAYに分類したが、神話というジャンルに関する知識について解答をした場合には、むしろOO分類の方が適切であろう。

設問6 この話(イカロスの9コママンガ)を終わらすために、絵と文をかきなさい。(1コマ, 3行)  
解答 1点の基準：翼が溶けている絵か、翼が崩れて悲しい終わり方になっているか、あるいはハッピーエンドになっているもの。例1)彼の翼はとけてしまった。例2)男の子は水に落ちて沈んでしまった。例3)ちょうどそのとき、彼のお父さんが飛んできて、彼を助けた。0点の基準：話が終わらない場合。彼は素敵な時間を過ごした。もっとも高く。

これは、一見するとAYに分類できそうであるが、あえてOOに分類した。なぜなら、お点の採点基準にあるように、8コマ目までを正確に理解しているということよりも、9コマ目でマンガが終わるのだということを理解していて、話を終わらせているということが重視されているからである。このように、自分として話をどのように展開していくかということも、読書力としてとらえられている。

設問15 あなたのクラスで、日食についてもっと調べようとしています。あなたは何を知りたいと思いますか。(2行)  
解答 1点の基準：新しい関連する情報を探す。例1)なぜ日食が起こるのか。例2)どれくらい頻繁に日食は起こるのか。例3)月はどれくらいの大きさか。0点の基準：質問になっていない。記事の繰り返しの情報。もしくは、トピックに関係がないこと。例1)この話は本当ではない。例2)少女たちは何を見ているのか。例3)めがねをどうやってつくるのか。

OOに分類した。関連して、新しい疑問がもてるを読書力として評価している。

設問16 なぜこの人は、蚊にそっと話しかけているのでしょうか。(2行)  
設問17 なぜこの数語は大文字で書かれたのでしょうか。(2行)  
設問18 この作者は蚊をかわいらしいと思っていますか。(2行)  
解答及び評価基準の提示は省略する。

設問16はAYに、設問17はOOに、設問18はAYに分類した。詩を読むときには、本文そのも

のに解答が含まれていることは少なく、自分の持っている知識や感覚を総動員しなければならないことを示している例といえる。

設問19 次の本のうち、「オリジナルの飛び出す民話をつくろう」の作り方が書いてあるとあなたが思うのはどれですか。(4択)

- 1 親子の馬の絵「イソップ童話」 2 お面や人形のカードの絵「工作のアイデア」  
3 ブタの絵「ブタ＝ブタの真実」 4 くまのぬいぐるみの絵「やわらかいおもちゃをつくる」

解答 1点の基準：2つ目を選んでいる場合

これは、OO に分類した設問である。ここで問われていることは、子どもが本を多く読んだ経験があるか、あるいは、本に関する適切な知識を持っているかである。

設問22 もしもあなたが第6段階の前に第7段階をしたなら、飛び出すカードはそのまま作れるでしょうか。あなたの解答を説明してください。(2行)

解答 1点の基準：「はい」か「いいえ」で答えていて、かつ、この作業を紙の反対側で行う(すなわち裏紙を貼る)ということを理解している。例1)はい。なぜなら、カードの反対側に仕掛けてあるからです。例2)いいえ。なぜなら、登場人物が壊れてしまうからです。0点の基準：説明がないかこの作品に変更を加えたことが言及されていない。例1)いいえ。十分に強くないからです。例2)いいえ。穴が開いてしまうからです。

これは、AY に分類した設問である。この設問で要求していることは、「はい」でも「いいえ」でもない。裏紙を貼るという現象を理解し、かつ、自分がカードを作るとした場合の見解を尋ねている。つまり、カードを作るという行為とそれに関する妥当な判断が問われている。

設問23 なぜこの作り方の説明にこの写真(完成したものを所持4人の子どもとほほえむ1人の教師が写っている)があるのですか。(1行)

解答 1点の基準：目的の妥当な説明。例1)カードを仕上げたことを示すために。0点：例1)みんながどのように作ったかを示すために。

これは、AY に分類した。これは、作り方の手順を理解しただけでは解答できない。作り方の手順を示した文章、あるいは、雑誌という媒体に対する知識が含まれているからである。

設問24 教師の指示を聞き取りなさい。(ちなみに、教師は、本のタイトル部分を指して、「これは何ですか。」という質問をすることになっている。)(1行)

解答 1点の基準：タイトル、本の名前。0点：例1)ポーナルー湾一のくちばし。例2)見出し。

この設問は、本というものに関する知識を問うている。OO に分類した。

設問25 この話はどこの話だと思いますか。あなたの解答を説明してください。(2行)

解答 2点の基準：絵やタイトルという手がかりをつかって、場所を特定している。また、その理由も述べている。例1)水が見えるので海岸です。例2)マングローブがあるから沼地です。例3)タイトルにあるからポーナルー湾です。ポーナルー湾と呼ばれている海岸です。

1点の基準：妥当な理由は示していないが水に関係したところであることを述べている。例)海岸、湾、湖、ポーナルー湾、鳥が住んでいるのだから水際です。0点の基準：妥当でない答えあるいは場所が特定できない場合。例1)砂漠。例2)森です。なぜなら水鳥と海藻があるからです。

これは、絵本の表紙の絵やタイトルをどのように読んでいくかという設問である。TS に分類

した。

設問26 この本の中の話について考えなさい。2つか3つの文で、この話を書いてください。(4行)  
解答 2点の基準：「ペリカン(または鳥)」、「くちばし」、「競争」の3つを含んだ話の要約。例1)私は、この話は、鳥たちが一番良いくちばしを持ったのはだれかをみつける競争をしている話だと思います。例2)2,3羽の鳥がいて、彼らは、自分たちのくちばしが一番良いということを思っていて、そうであるということを示したくて、対決しているのです。1点の基準：前述の3つのうち、1つか2つを参照した要約、もしくは、本のタイトルの言い換え。例1)くちばしが一番だから、ペリカンが全ての鳥のボスであるという話です。例2)誰が一番良いくちばしを持っているかで、鳥たちがコンテストをするという話です。ボーンルー湾の一番良いくちばしの話です。

話の内容を読まずに予測するという意味で、OOに分類した。しかし、自由な予想をすることについても、このような採点基準があるのは、参考になる。本を本として読んできた子どもでなければ、このタイプの設問には答えるのが困難である。

#### 4. 考察

以上、DARTの小学校中学年用英語のA型の素材・設問を評価基準を参照しながら分析した。全体を通してまとめると、DARTにおいては、我が国では取り上げていない以下のような点を、テストという形式で評価していると言える。

##### (1) テストに使用する媒体を工夫していること

一つの素材を複数の領域で使用するというのは、面白い発想である。特に分析したのは、小学校中学年用英語のA型であったが、「雑誌」という形態をとることで、マンガ、新聞記事、詩、写真など様々な素材を取り扱うことができていた。しかし、イギリスのナショナル・テストに見られるように、「雑誌」という媒体そのものに対する設問は、表紙でも裏表紙でも、その他のページでも見られなかった。

特に、マンガを読むこと、複数の情報を含んだ新聞記事を読むこと、写真を含んだ手順の説明書きを読むことなどは、我々の普段の読書生活で多く行っていることである。それをテストで評価することは、我が国のテストの中ではあまり行われていない。DARTの「イカロス」(設問1～6)、「日食」(設問12～15)、「オリジナルの民話を作ろう」(設問19～23)は、これらをテスト形式で評価可能にしている好例と見ることができる。

##### (2) 読む(読書)という概念を広くとらえていること

最初に述べたように、オーストラリアでは、クリティカル・リテラシーや、マルチリテラシーズ、メディア・リテラシーなど、リテラシーを広く見る見方が定着している。このことを裏付けるように、DARTでは、読むということを広く扱っていた。具体的には、以下のようなことが読書力を測るものとして提案されていた。

- ・マンガのコマ絵を読むということ(設問3)
- ・自分の考えをコマ絵と解説文によって表現すること(設問6)
- ・語の意味について絵に示して解答すること(設問9)

- ・知りたいという気持ちと具体的な問いを持つこと（設問15）
- ・示された手順について自分ならどのように実行するかという意見を持つこと（設問22）
- ・本の表紙から中身を予想すること（設問25）

これからは、表現手段の多様性と表現内容の多様性の両方が認められる。

### (3) 本や読書のジャンルについての知識を問うていること

その子どもの普段の読書生活が分かるような、本や読書のジャンルに関する知識を持っていることを、評価している。

- ・話の虚構性あるいは神話というジャンルを知っていること（設問5）
- ・工作の本について判断ができること（設問19）
- ・絵本には、表紙タイトルが書かれているという知識を持っていること（設問24）
- ・物語というジャンルを理解し、それに合わせた物語を作成できること（設問26）

いずれも、読書を頻繁に行っていなければ、解答できないような設問ばかりである。

### (4) 自由記述式解答が多く、オープン・エンドの設問が多いこと

解答の形式が、自由記述が多い。このことは、オープン・エンドの解答を行うために必要である。特に分類1でCまたはDと判断した設問、分類2でAYまたはOOと判断した設問は、自由記述という形式によって表現しうるものである。

## 5. おわりに

本稿では、「国際標準」を視野に入れた読書力評価とは何かを検討するため、PISA2000及びPISA2003で上位の成績をおさめ、新しい時代のリテラシーを積極的に提案し、他の英語圏の国々からも高く評価されているオーストラリアの国内標準テストDARTを分析し、我が国に示唆的な点を整理した。その結果、DARTは、雑誌や本といった実際の読書生活に近い媒体を用い、読書概念を広くとらえ、読書に関する本やジャンルなどの知識も評価し、かつ、自由記述式解答やオープンエンド解答で、児童・生徒の読書時に働く自由な予想を示させたり、読書と自分の経験とのつながりを発見させたりすることを読書力として評価していることが明らかになった。

雑誌という媒体についての設問がなかったことや、読書力の側面を示した指標がなかったことなど、DARTに問題点がまったくないわけではない。しかし、DARTは、教育行政局へのデータを提供するものというよりは、教師が普段の子どもの評価に用いるための評価パッケージである。このような評価パッケージを我が国でも開発すれば、本研究の目的としている、「学校教育における児童・生徒の読書活動を推進し活性化するような読書力評価」を、現在よりもよい状態で行うことができるものとする。

今後も、このような事例を積み重ねながら、我が国の読書力評価の改善を検討していきたい。

## 謝辞

資料収集にあたって、オーストラリア RMIT 大学の Heather Faye Fehring 氏に協力を得た。

感謝申し上げます。

なお、本稿は、平成16年度～18年度科学研究費補助金若手研究(B)「リテラシー育成指向の読書指導研究のための国際標準に基づく読書力診断テストの開発」(課題番号16730416)の助成を受けている。

## 注

- (1) イギリスのナショナル・テストとは、ナショナルカリキュラムに基づいてその達成度を見るテストである。7歳、11歳、14歳の全ての児童・生徒が対象となっており、読書、数学、理科等が含まれている。QCA (Qualifications and Curriculum Authority) が作成、実施している。足立 (2003) 参照。アメリカの NAEP (National Assessment of Education Progress, 全国教育到達度評価) とは、アメリカの教育行政に関する統計を扱っている研究所 NCES (National Center for Education Statistics) によって毎年行われている全米レベルのテストで、4年生、8年生、12年生が対象のテストである。州ごとの成績を示すものである。足立 (2004) 参照。
- (2) PISA とは、OECD (経済教育開発機構) による15歳の生徒の学習到達度調査である。読解力 (reading literacy)、数学的リテラシー (mathematical literacy)、科学的リテラシー (scientific literacy) の3分野について扱っている。3年ごとに3分野が実施されるが、毎回中心となる分野が決まっている。2000年 (PISA2000 と呼ぶ) は読解力について、2003年 (PISA2003 と呼ぶ) は数学的リテラシーについて重点がおかれ、2006年も科学的リテラシーに重点が置かれることが決まっている。本稿での関心は、読解力のみである。我が国においては、PISA2000 の読解力の平均が31か国中8位、PISA2003 の読解力が41ヶ国中14位となった。PISA2000 は我が国の国語・読書・読むことなどに関わるほとんど初めての国際テストであったがゆえに、国語科教育界でも注目を集めた。PISA2003 の方は、PISA2000 に比べて統計的に有意な低下と認められ、学力低下論議が起こった。なお、国立教育政策研究所が、PISA2000、PISA2003 の結果報告書をまとめている (国立教育政策研究所、2002、2004)。オーストラリアは、PISA2000 もPISA2003 も読解力の平均が第4位であった。
- (3) 筆者は、在外研究員として、イリノイ大学シカゴ校に1年間滞在したが、教員・大学院生の研究会及びゼミ等で、オーストラリアの文献を読んだ割合が高かった。アメリカ国内における各種学会・研究会等でも、オーストラリア・ニュージーランドの研究者の招待はイギリス・カナダ等よりも多かった。
- (4) オーストラリアは、首都特別区、ニューサウスウェールズ州、北特別区、クイーンズランド州、南オーストラリア州、タスマニア州、ヴィクトリア州、西オーストラリア州の8つの地区によって、教育のテストや評価を行っている。一般的に子どもたちは、低学年 (就学前か1年生か2年生)、3年生、5年生、7年生で、州独自のテストを受ける。
- (5) 筆者は基本的に、「読書」と「読むこと」を区別しない立場に立つ。特に英語圏のものを扱

っている場合は、原語はいずれにせよ reading である。

- (6) Boedy et al (1996) のことである。この中に、実施の仕方（どのような言葉を話すかも含む）、解答、採点の仕方、採点の基準（評価基準）が示されている。
- (7) B型雑誌もやはり8ページ構成となっており、1ページ目の表紙と、8ページ目の裏表紙は、A型とまったく同じである。やはり、神話・伝説・民話の特集ということになっている。2ページ目は、鳥の足の形についての説明文である。それぞれの鳥の姿と足の形が、絵で示されている。3ページ目は、コシグロトキという古代エジプトの智慧の神とされていた鳥について、複数の形態の文章からなる新聞か雑誌の一面のようなページである。4ページ目は、ミノタウロス（ギリシャ神話）についての簡単な説明と、ミノタウロスの姿についての描写文からなる。5ページ目は、ミノタウロスの形をしたビスケットを作るためのレシピが、第1ステップから第7ステップまで示されている。6・7ページは、中国の伝説である。10個の太陽が出て、皆日照りで困っていたが、Hou Yee という弓道家が9個の太陽を射抜き、英雄になったというものである。B型雑誌はA型に比べて多少文章が長く難しいようである。B型は、A型のような9コママンガこそないが、多ジャンルや多種の文章を取り入れていること、絵を取り入れていることなど、A型と共通する特徴が認められる。B型から指摘できる点は、A型でも指摘できるので、本稿では、A型のみを取り上げた。
- (8) 足立 (2004), 53ページ, 表6のうち, 4年生対象の文学的テキスト「川」の9つの設問, 情動的テキスト「ウォンバットに注意しろ!」の12の設問を, QARに基づく分類で分類してみた。

## 文献

- 足立幸子 (2003) 読書力評価の国際標準にむけての一考察—イギリスのナショナル・テストを中心に— 人文科教育研究30: 95-112.
- 足立幸子 (2004) 読書力評価の国際標準にむけての一考察(2)—アメリカの NAEP をを中心に— 人文科教育研究31: 43-63.
- 足立幸子 (2005) マルチリテラシーズ 月刊国語教育研究395: 46-51.
- ACER (1996) *We want to know more A*. Melbourne, Victoria: The Australian Council for Educational Research Ltd.
- ACER (1996) *We want to know more B*. Melbourne, Victoria: The Australian Council for Educational Research Ltd.
- Bodey, W., Parking, L., Forster, M. and Masters, G. (1997) *Developmental Assessment Resource for Teachers. DART ENGLISH MIDDLE PRIMARY* Melbourne, Victoria: The Australian Council for Educational Research Ltd.
- Fehring, H. (Ed.). (2003). *Literacy Assessment: A collection of articles from the Australian Literacy Educators' Association*. Newark, DE: International Reading Association.

- Fehring, H. and Green, P. (Ed.). (2001). *Critical Literacy: A Collection of Articles From the Australian Literacy Educators' Association*. Newark, DE: International Reading Association.
- Forster, M., Mendelovits, J. and Masters, G. (1994). *Developmental Assessment Resource for Teachers*. DART ENGLISH. Melbourne, Victoria: The Australian Council for Educational Research Ltd.
- 川崎国語メディア研究会 (2003) 西オーストラリア州メディア教育事情視察研修報告書 私家版
- 国立教育政策研究所 (2002) 生きるための知識と技能— OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA) 2000年調査国際結果報告書 ぎょうせい.
- 国立教育政策研究所 (2004) 生きるための知識と技能2— OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA) 2003年調査国際結果報告書 ぎょうせい.
- The New London Group. (1996). A pedagogy of multiliteracies: Designing social futures. *Harvard Educational Review*, 66(1): 60-91.
- Oliver, N. (1993). *The best beak in Boonaroo Bay*. Melbourne, Victoria: Thomas C. Lothian Pty Ltd.
- Raphael, T. (1986). Teaching question-answer relationships, revised. *The Reading Teacher* 39: 516-523.